

生分解性マルチの物性比較試験



エコディア(7月16日撮影)



ビオフィレックス(7月16日撮影)



ビオフィレックス(10月8日撮影)



ビオフィレックス(10月8日撮影②)



中:ビオフィレックス 右:エコディア(10月8日撮影)

試験目的

生分解性マルチの物性比較試験

試験作物
及び品種

南瓜(こぶき)

試験資材
及び数量(規格)

ビオフィレックス(黒、0.018mm×95cm×400m、無孔)

慣行資材

エコディア(黒、0.018mm×95cm×400m、無孔)

栽培方法

定植日

6月15日

【栽植密度】 畝幅：3m 株間：70cm

資材使用期間

6月中旬～10月下旬

試験区面積

1200㎡

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

特に変わらない。(センターマークの間隔が30cm 毎となっているが、一般に南瓜栽培は70cm又は1m 株間とのことから、20cm毎のセンターマーク印字ができないかとの要望があった。)

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

生育に関する差はなかった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】マルチの崩壊性については、ビオフィレックスの方が若干遅く感じられたが、雑草抑制効果は慣行資材と同等であった。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

上記(1)(3)の通り、作業性・崩壊性の大きな差は見られず、特に問題はなかった。

(5)保温効果について

慣行資材との差はなかった。

(6)雑草・病害虫の発生について

慣行資材の方で、早くにマルチが裂け始めたところがあり、そこからの雑草発生が見られたが、大きな問題とはならなかった。

モニター感想

新規の生分解性マルチということでの試験だったが、従来使用していたマルチと変わりなく使用できたため、次年度も使用したいと考えている。

JA担当者の感想(購買課 立崎氏)

農家が使用した結果、良い印象を持っているため、次年度に向けて管内南瓜生産者へ積極的に推進していきたい。

今後の使用について

継続して使用したい。

将来希望する資材について

より安価な生分解性マルチの開発を期待している。